

【講師のプロフィール】

三島 次郎

東京生まれ。東京教育大学理学部生物学科卒業。ジョージア大学大学院生物学研究科生態学専攻卒業(理学修士)。理学博士(東京教育大学)。東京教育大学助手・講師、第8次、第10次南極地域観測隊員、筑波大学講師・助教授・教授を経て桜美林大学教授、同名誉教授。専門は生態学、環境科学。著書:「オダム基礎生態学」(訳、培風館)、「トマトはなぜ赤い—生態学入門」(東洋館出版)、「街角のエコロジー」(玉川大学出版会)など。

石澤 清史

東京で「ゴミ戦争」がはじまった1970年から「ゴミ問題」の重要性をテレビなどのマスメディアを通じて訴えてきた「ゴミ問題」の第一人者。NHKのプロデューサーとして、数多くの『環境問題』をテーマにした番組を企画・制作。とくに、家庭・学校・社会という教育の場でそれぞれ特色のある「環境教育」を体系的に行う必要性を提唱し、小学校、高校の教科書にも執筆。また、環境先進国「ドイツの環境政策」を専門とし、自らを「環境布教師」と呼び、全国で講演活動をしている。環境省環境カウンセラー、循環型社会研究会理事。著書:「生活環境論入門」(リサイクル文化社)、「地球環境新時代」(中央法規)、「ガボロジスト石澤清史の人間賛歌」(リサイクル文化社)など多数。

籠橋 隆明

1957年生まれ。1976年京都大学法学部入学。1987年京都弁護士会に登録。京都の都市問題や大文字山ゴルフ場建設反対運動などに取り組む。1995年に提訴された「奄美『自然の権利』訴訟」をはじめとする、環境裁判を多く手がけている。日本弁護士連合会の公害対策・環境保全委員会委員。日本環境法律家連盟(JELF)、「自然の権利」基金の事務局長を務める。1997年に名古屋に移した事務所の名前は、「環境と正義」の頭文字をとって「名古屋E&J法律事務所」。

飯田 哲也

1959年山口県生まれ、京都大学工学部修了(原子核工学)、東京大学先端研博士課程単位取得満期退学。1992年～現在、日本総合研究所主任研究員。2000年4月から、(株)自然エネルギー・コム代表取締役社長および京都女子大学現代社会学部教員。環境NGO「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク代表なども務める。1996年～現在、スウェーデン・ルンド大学客員研究員。総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会委員。特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所所長。著書:『北欧のエネルギーデモクラシー』新評論、2000年、訳書:『エネルギーと私たちの社会-デンマークに学ぶ成熟社会』新評論、2002年など。

嶋津 暉之

1943年生まれ。東京都環境科学研究所勤務を経て、現在「東京の水を考える会」と「水源開発問題全国連絡会」の事務局スタッフとして活躍。各地の水源地の技術的な解析を行っている。著書:「どうなってるの?東京の水」「やさしい地下水の話」「水問題原論」(いずれも北斗出版)、「21世紀の河川思想」(共著、共同通信社)、「改訂地下水ハンドブック」(共著、建設産業調査会)など。

篠原 孝

1948年長野県生まれ。1973年京都大学法学部を卒業し農水省に入省。1976年米国ワシントン大学海洋総合研究所(法学修士)。カンサス州立大学経済学部留学。1982年農水省大臣官房企画官。1991年OECD出向(パリ駐在)。1994年水産庁企画課長。2000年農林水産政策研究所所長。2003年農水省を退職して衆議院議員に。民主党農林水産団体局長。著書:「農的循環社会への道」(創森社)、「第1次産業の復活」(ダイヤモンド社)、「農的、小日本主義の勧め」(創森社、復刻版)など多数。